

富所潤の

◎各号連載・毎月15日発売号掲載

FISHING GRAPH

フィッシンググラフを見て感じて楽しむ沖釣りライフ

⑮ フォースマスター200

in 東京湾のタチウオ

今春、衝撃的な超小型電動リールが発売される。その名はフォースマスター200。最先端の技術を手中に収め意のままに操るその楽しさは、沖釣りをさらに面白くすると富所さんは言う。

デジタルディスプレイとNEWタッチドライブはフォースマスター600と同サイズで操作方法も同様



MUTEKI MOTOR+はフォースマスター300を上回るシマノ巻上力27kg。スプールとレベルワインドは連動

フォースマスター200の実物を見た第一印象は「自然」であった。「デジタルディスプレイとNEWタッチドライブはフォースマスター600と同様で、設定用ボタンの位置が若干変わっているだけです。これだけコンパクトなのに何の違和感もありません」富所さんの言うとおり、違和感がない。その佇まいにはシマノ電動リールに共通するガツツリとした質感と存在感がある。ゆえに、自然に見える。では、小さく感じないのか？ といえば、それはNOだ。

今や一年中テンヤタチウオを楽しむことができる東京湾。この日は水深60～70メートルを狙った



◎とみどころ じゅん シマノインストラクター。ティップエギング、メタルスッテゲーム、ライトヤリカのほかタチウオなど、船のライトゲーム、「楽しむ釣り」の最先端に行く。



[フォースマスター200]



◎片手での操作性を突き詰め、MUTEKI MOTOR+によるパワーとスピードに加え、ハンドルのハイギア化などの実釣での使いやすさを追求。中間速設定機能を追加したNEWタッチドライブや、ほぼ完璧な等速巻きを実現する電動等速巻制御、NEW海底・魚群水深表示ほか、多彩な最先端機能を搭載した最新コンパクト電動リール。
●ギア比8.2、最大ドラッグ力5.0kg、予定自重395g、糸巻き量PE0.8号270m、1号220m、最大巻上長66cm / 1回転、シマノ巻上力27kg、実用巻上持久力3kg、最大巻上速度195m / 分、本体価格=7万9500円。2021年4月(200DHは5月)発売予定。



▲食い渋り時に効果的な微速巻き。フォースマスター200は「速度1」で安定した巻き上げを見せる



▲NEWタッチドライブと3つのボタンはすべて親指で操作が可能。デジタルカウンターはフォースマスター600同様のサイズで視認性に優れる



▲不意な急速巻き上げを防ぐ中間速設定は任意で変更可能。販売時はタチウオにも最適な22に設定されている



▲電源ケーブルをハンドル側に配置することにより、手のひらで包み込むようなパーミング性を実現。フォースマスター300DHに比べサイドプレート面積で20パーセント小型化している



▲ギア比8.2、ハンドル1回転あたり最長66センチを巻き上げるハイギア化により、より手巻きリールに近い誘いやアクションが可能。スプールに触れながらオン・オフ切り替えが可能なスピードクラッチは素早い手返しを実現



▲スプール端の面をタッチすることで細かく正確なサミングが可能。テナヤ投入時も楽と富所さん

「NEWタッチドライブとMUTEKI MOTOR+は扱いやすさと十分なパワーを備えています。実際に手にすると分かるのですが、巻き上げ時のしつかり感は相当なもので、これはカタログ数値に表れない、ボディや各パーツの剛性によるものだと思います」
2本目も微速巻きからの巻掛で、その後はロングステイで、フックアウトも交えつつ、冬の東京湾でテナヤタチウオを夢中で楽しむ富所さん。気がつ

ければフォースマスター200はその釣り姿に、船上の風景に溶け込んでいる。落とす、止める、誘う、掛けるといった感覚的な動作は手で、巻き上げはモーターで、ともに快適に。最先端技術を凝縮しながらも、主役はあくまで釣り人。色んな釣りで使うたびに新たな「楽しさ」を気づかせてくれる予感がする——フォースマスター200は、そんな電動リールである。

注目を集めるフォースマスター200だが、手の中に収まってしまうため目立たない



ロングステイからの魚信に、瞬間的な巻き合わせでフッキングさせる富所さん



竿に過重が加わると同時に、ほぼ反射的にタッチドライブをオン。中間速の22へ立ち上がりつつ、竿が大きくなる



竿は硬めの先調子、サーベルマスター エクスチューン テンヤ91H160。強烈な引きはドラッグがかわす



▲片手はリールを自然に持ち、もう片方の手はハンドル操作に集中。当たり前のことかもしれないが、高次元でバランスが取れて初めて実現することでもある



▲水深70メートルから中間速設定の22で大型タチウオを巻き上げ続ける。強烈な引込みにもモーター音が変わることなく、力強く巻き続けた。使用ラインを考慮すれば十分すぎるパワーといえる

単軸のハリに加え、尻下がりの姿勢となるため小さい振り幅でフッキングが可能



指幅5本級。フッキングの衝撃と後ずさりするような重量感ある引きを楽しんだ

▲シルエットを小型化、短軸、角度付きハリを採用したサーベルマスター船テナヤβは最新のフェイスバレットカラー5色のラインナップで6月発売予定



▶アタリは少ないが大きく出ること。素早く巻くことができなければ掛けれない場面でも、フォースマスター200は活躍する

「ぼくの手はそれほど大きくありませんが、フォースマスター200のサイドプレートはかなり隠れてしまいます」
東京湾のタチウオ釣りのパイオニア、三浦半島新安浦港・こうゆう丸にて狙う走水沖の水深70メートル。富所さんは大型に的を絞る、サーベルマスター船テナヤβに大羽イワシを装餌、サーベルマスター エクスチューン テンヤ91H160のXシートエクストリームガングリップとともにフォースマスター200を左手で握り込むと、手の甲に覆われてほとんど見えない。
それだけではない。仕掛けを投入する際のスピードクラッチ、巻き上げる際のNEWタッチドライブ、ともに操作は親指をわずかに動かすだけ。

手に隠れるうえ、いつ操作したのか分からない。これほどカメラマン泣かせの、パーミング性に優れた電動リールは過去にない。
「今は微速巻きでタナを探っています。50号のテナヤを速度1で安定して巻き続けられることもクオリティの高さを証明しているのですが、さらにフォースマスター200には、タイラバなどでほぼ元べきな等速巻きを実現する電動等速巻制御も搭載されています」
得意の微速巻きで海底から10メートルほどを探り、トン！と突き上げるアタリに素早くハンドルを巻いて合わせる「巻掛」でフッキングさせる富所さん。
「フォースマスター200はコンパクトボディながらハイギア化されており、ハンドル1回転あたり最大66センチで巻き上げますから、誘いも、巻掛も、手巻きリール同様の感覚です」
素早くハンドルを巻きながらリフトさせた竿が、モーター音とともに曲がり込む。いつ、電動巻き上げに移ったのか分からないほどの流れるような動作でヤリトリに移行する。
ここでだれもが気になる巻き上げ力を見る。上がってきたのは指幅5本級、メーターオーバーのタチウオだが、フォースマスター200のMUTEKI MOTOR+は、音も速度もまったくブレず、余裕がある。